［　事例１　］

作業安全と環境への配慮を最優先 こだわりの中からヒット商品も誕生

㈱吉田金型工業

2024年1月の昼下がり。吉田金型工業（愛知県大府市）の事務棟前に1台のトラックが横付けされた（図1）。出荷前のいつもの光景だ。冬のまぶしい日差しに真新しい品物が映える。だが、よく見ると荷台に載せられた品物は本業のダイカスト金型ではなく、自社商品の多目的作業台「マルチターンテーブル」（以下、ターンテーブル）であった。けっして安価な商品ではないが、作業性や安全への配慮が評価され、ここにきて顧客であるTier1メーカーや同業の金型会社からの注文が相次ぎ、すでに50台以上を販売した。「創業以来、作業安全と環境への配慮に努めてきた成果物であり、今後も本業同様、胸を張って販売していく」と吉田正生社長は話す（図2）。

ダイカスト金型づくりの老舗

同社は自動車部品用ダイカスト金型の設計・製造を専門とする会社である。主要顧客にはデンソー、豊田自動織機、東海精機、日立Astemo、美濃工業、ジェイテクトなど、大手部品メーカーがずらりと並ぶ。創業は1945年で、ダイカスト金型づくりの老舗でもある。創業当時は近隣企業への技術指導も行ったという。もともと技術レベルの高い会社だったが、1987年にデンソー協力会（現・飛翔会）に入会し、信用力を高めたことが今日の躍進につながった。ただ、協力会に加盟する多くの会社がデンソー1社への依存度を強めているのに対し、同社はメンバー企業とはいえ依存率は低く、逆にTier1メーカーを中心に多くの企業を顧客にもつことが特徴である。「多くの優れた顧客とお付き合いする中で、自社の技術を高め、それを提案力に活かしていることが強み」と吉田社長は胸を張る。

技術面の強みはいろいろある。ダイカストは金型内部の状態を正確に把握することが困難とされているが、顧客企業と共同で研究を重ね、真空状態を測定できる計測器を開発。今日ではそれらの技術をもとに品質保証に力を注いでいる。

さらに、長年にわたり強みとしてきたのが仕上げの磨き技術である。2001年に豊田自動織機の取引口座を開設することができたのは、「磨きがピカピカで良い」と評価されたのも一因と話す。「かつては『金型

会社概要

会社名：㈱吉田金型工業
代表者：吉田正生
所在地：〒474-0011
愛知県大府市横根町坊主山1-589
設立：1953年
従業員数：70名
事業内容：自動車部品用ダイカスト金型、航空機部品、専用機治工具、自社開発製品などの設計・製造

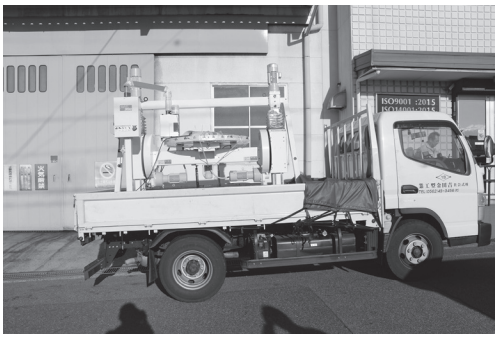

図1　出荷前のターンテーブル